

平成26年(2014年)6月19日
山口県病虫害防除所

1 病虫害名 ハコベハナバエ *Delia echinata* (Séguy)

2 作物名 ホウレンソウ

3 特殊報の内容 山口県でホウレンソウの被害を初確認

4 発生経過

(1) 発生確認月日：平成26年5月9日

(2) 発生地域：防府市

(3) 発生状況

防府市の露地栽培ホウレンソウにおいて葉肉内に袋状に潜って食害するハエ類の幼虫が確認された。採集した幼虫及び羽化した成虫について、神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、ハコベハナバエと同定された。

(4) 他県での発生状況等

本種はハナバエ科の一種で、山口県を含む九州以北の日本各地、朝鮮半島、ヨーロッパおよび北アメリカに分布する。寄生植物は、カーネーション、ナデシコ、セキチク、ハコベ、オランダミミナグサ等のナデシコ科植物、ホウレンソウ等とされている。

近年、全国各地でホウレンソウの被害が確認されており、平成19年に神奈川県で、平成21年に東京都および奈良県、平成22年に埼玉県、群馬県でも確認され、特殊報が発表されている。

5 本虫の特徴

(1) 被害の特徴

本虫は葉裏に点々と1～数粒まとめて産卵する。幼虫はハモグリバエのように葉肉部に食入して潜孔を形成する。ふ化直後の食害痕は細い線状だが、その後発育するにしたがって集団で広く葉肉を食害するため、袋状の潜孔痕となる(図1、2)。

(2) 形態

成虫は体長6～7mm、胸・腹部は灰黄色粉で覆われた黒色のハエで、成虫の複眼は、雄では頭頂部でほぼ接しているが、雌では離れている(図3、4)。老齢幼虫は体長6～7mmで淡黄緑色(図5)、蛹は体長5mmで赤褐色俵状である(図6)。卵は長さ1mm程度で白色である(図7)。

(3) 生態

老齢幼虫は加害部から脱出して土中で蛹化し、約2週間で成虫が羽化する。一年に数世代を繰り返すと考えられる。

6 防除対策

(1) 耕種的防除

ア 防虫ネット等を被覆し、産卵を防止する。

イ 圃場周辺のハコベ、オランダミミナグサ等の寄主植物となる雑草を除去する。

ウ 被害葉はほ場外に持ち出し、適切に処分する。

(2) 薬剤防除

本種に登録のあるオンコル粒剤5をは種時に全面土壌混和する。



図1 ハコベハナバエ幼虫によるホウレンソウの被害



図2 葉肉内を集団で食害する幼虫



図3 雌成虫(体長6~7mm)



図4 雄成虫(体長6~7mm)



図5 老齡幼虫(体長約6~7mm)



図6 蛹(約5mm)



図7 卵(約1mm)